

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

1. 自分の意見を堂々と言える能力の育成
2. 得意技を身につけさせる
3. 進路指導の強化

### 2 中期的目標

#### 1. 学力を向上させる

- (1) 学習の目標を明確に理解させる
- (2) 学習・学校行事・部活動・家庭生活時間をバランスよく配分できるよう自己の時間管理能力を高め、授業外での学習時間数を向上させる。
- (3) 少人数展開授業により学習理解を深化させる。
- (4) 3年生において入試対策に向けた学習がより効果的に進められるよう、1・2年生の学習内容の定着を図る。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用する。
- (6) ICTを活用するなど、教員の授業力を向上させる。

※目標とする教育産業模試(年度最終)の平均点全国偏差値 (\*は、3年生で数学が必要な生徒対象)

1年グローバル科			1年普通科			2年グローバル科			2年普通科		
国	数	英	国	数	英	国	数	英	国	数	英
55以上	53以上	58以上	53以上	52以上	52以上	55以上	53以上*	58以上	53以上	52以上*	52以上

※学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答 90%以上を毎年維持。

※授業外での学習時間の目標を達成する。(週当たり時間)

1年グローバル科	1年普通科	2年グローバル科		2年普通科	
18.5時間	12.5時間	文系	理系	文系	理系
		19.5時間	19.5~20時間	14時間	14.75~15.25時間

※12月の生徒による授業評価で、3ポイント(1~4ポイントで評価)以上の教員を、平成26年度以降70%以上、全教員の授業アンケート総評の平均3.2以上とする。

#### 2. 論理的思考力、批判的思考力及び表現力を鍛え、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) IM(グローバル科「学校設定科目」及び普通科「総合的な学習の時間」において開講)で論理的思考力及び批判的思考力育成する。
- (2) 各種講演会や研修会を開催し、主体的に興味を持ち意見を述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業を積極的に展開し、多様性を受入れ他国の人々と協同する態度を育成する。

※IMに対する生徒による授業アンケート3ポイント以上を毎年維持。

※各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見70%以上

#### 3. 得意技を身につけさせる

- (1) 英語の4技能の向上を推進する。
- (2) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する。

※英語の外部検定スコア目標 (TOEFL iBT はチャレンジテストも含む) ※数値は累計

1年グローバル科		2年グローバル科		3年グローバル科	
GTEC for STUDENTS+Speaking	760点以上 4名	GTEC for STUDENTS+Speaking	825点以上 4名	TOEFL iBT	80点/IPT 550点以上 2名
	655点以上 20名		760点以上 12名	TOEFL iBT	60点/IPT 500点以上 8名
	535点以上 48名		655点以上 32名	TOEFL iBT	45点/IPT 450点以上 30名
	395点以上 80名		495点以上 80名		
			TOEFL iBT	40点以上 40名	

※高大連携事業の実施後アンケートの肯定的意見70%以上

#### 4. 進路指導を強化する

- (1) 入学時から難関大学の合格難易度について情報提供し、自らの進路目標を立てさせる。
  - (2) 定期的に学習習熟度を測定しながら、進路実現に向け支援する。
  - (3) 外部団体との連携により進路情報を提供し、進路選択を支援する。
- ※学校教育自己診断(きめ細かな進路指導)に対する生徒・保護者の肯定的回答を毎年70%以上維持
- ※大学合格数(現役)

海外大学、旧帝大、早慶上智大学等	難関国公立大、同立関学、MARCH	関大、他の国公立大
10	75	120

#### 5. 修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ個別のケースに対応する。
  - (2) 支援を必要とする生徒・保護者への相談体制を整える。
- ※学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)に対する生徒・保護者の肯定的回答70%以上を毎年維持

#### 6. 教育効果を向上させるため校務を整理し、経験が少ない教員の育成を図る

- (1) 効果的かつ迅速に校内運営ができるよう、各部署の長に責任と権限を明確にするとともに校内組織を整理する。
- (2) 経験が少ない教員を主要ポストに任用し、人材の育成を図る。
- (3) 学校協議会の提言を参考にしつつ、学校教育の改善を進める。

#### 7. 広報活動の充実を図る

- (1) 学校パンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年11月実施分]	学校協議会からの意見
ほとんどの項目において昨年並みの現実度の数値となっている。 昨年度からの課題である家庭学習時間の不足をどう増加させるかが、今年もまた課題として残った。2年生に関しては、若干であるが昨年を上回る結果が得られている。 記述では部活動の休みが少ないなどの意見をいただいている。H29年4月より実施される週1回のノークラブデーがどのような効果をもたらすか、分析が必要である。	<p>第1回 (6月4日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 指導のハードルを下げず、学期の最初から目標を具体的かつ明確に設定して言い続けてほしい。</li> <li>② 高大連携やOBの活用を進め、生徒の意識を高めてほしい。</li> </ol> <p>第2回 (8月26日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学力向上のための、生徒のやる気を引き出す「しかけ」を数多く実施してほしい。</li> <li>② キャリア教育・高大連携・卒業生の活用・地域の活用など複合的に活用してほしい。</li> </ol> <p>第3回 (1月6日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校舎等のメンテナンスは必要なことであるので、定期的なメンテナンス実施をお願いしたい。</li> <li>② 和泉高校は2学科が併置されているが、一体化を保ちながらそれぞれの特徴を出してほしいと思う。</li> </ol>



3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 日々の学習内容の定着を積み重ねる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) ICTの活用及びアクティブラーニングによる授業研究を進める</p>	<p>(1) 新入生ガイダンスにおいて、各教科の学習内容や目標・目的及び授業の進め方や家庭での学習時間の枠を意識した家庭での学習方法について説明を行う。</p> <p>(2) ①教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。 ②スケジュール管理帳や朝勉時間の集計表等を活用する。 ③補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 2年生数学を進路別、2年生英語を習熟度別に編成する。</p> <p>(4) 小テスト、宿題考査、追試、指名者補習等を有効的に連動させる。</p> <p>(5) ①1年グローバル科は隔週に土曜授業を実施。 ②2・3年グローバル科は土曜必須講習を実施。 ③普通科は希望者講習を実施。</p> <p>(6) ①教員のICTを活用した授業研修を年2回実施。 ②アクティブラーニングの研修を年2回実施。 ③教員の「イチ押し授業」登録制度を継続実施し、教員の相互授業見学の機会を増やす。</p>	<p>(1) 新入生ガイダンスの実施後のアンケート結果、肯定的な回答90%以上 (昨年度 肯定的な回答90.7%)</p> <p>(2) ・週当たりの授業外学習時間校内平均(時間) &lt;1年生&gt; グローバル科:18.5/普通科:12.5 (昨年度グローバル科:7.7/普通科:6.5) &lt;2年生&gt; グローバル科:文系19.5/理系19.5~20 普通科:文系14/理系14.75~15.25 (昨年度グローバル科:文系6.0/理系6.7 普通科:文系7.6/理系7.5) ・学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答90%以上 (昨年度87.3%)</p> <p>(3) 教育産業模試(11月)数学の学年平均偏差値 グローバル科:数学53以上/英語58以上 普通科:数学52以上/英語52以上 (昨年度グローバル科:数51.2/英56.7 昨年度普通科:数51.5/英48.9)</p> <p>(4)(5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年:国55以上/数53以上/英58以上 2年:国55以上/数53以上/英58以上 普通科 1年:国53以上/数52以上/英52以上 2年:国53以上/数52以上/英52以上 (昨年度グローバル科 1年 国54.6/数53.7/英59.5 2年 国51.9/数51.2/英56.7 昨年度普通科 1年 国51.4/数50.9/英51.1 2年 国51.3/数51.5/英48.9) ・授業アンケート(2回目)の「授業に対する生徒の取組」3.0以上 (昨年度3.08)</p> <p>(6) ①教員のICT活用率70%以上 (昨年度60%) ① 授業アンケート(2回目)の「教材活用」3.3以上 (昨年度3.33) ② 教員の授業アンケート総評の平均3.2以上 (昨年度3.25)</p>	<p>(1) (実施形態の変更) 資料なし 新入生ガイダンスの実施形態の変更によりアンケート実施せず。</p> <p>(2) ・週当たりの授業外学習時間校内平均(時間) &lt;1年生&gt; (△) グローバル科: 7.6 /普通科: 6.3 &lt;2年生&gt; (△) グローバル科:文系 7.3 /理系 7.5 普通科:文系 8.9 /理系 7.5 ・学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答80% (△)</p> <p>(3) 教育産業模試(11月)数学の学年平均偏差値 グローバル科:数学52.7/英語59.6 (◎) 普通科:数学51.2/英語49.4 (△)</p> <p>(4)(5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年:国58.8/数54.8/英59.4 (◎) 2年:国54.6/数52.7/英59.6 (○) 普通科 1年:国51.7/数49.5/英50.1 (△) 2年:国49.9/数51.2/英49.4 (△)</p> <p>・授業アンケート(2回目)の「授業に対する生徒の取組」3.37 (◎)</p> <p>(6) ①教員のICT活用率94% (◎) ①②授業アンケート(2回目)の「教材活用」3.34 (○) ③ 教員の授業アンケート総評の平均3.25 (◎)</p>
力、2. 多問題性を解決できる能力、論理的思考力の醸成、表現	<p>(1) ①論理的思考力・批判的思考力を育成 ②説得力のある論理的な文章を作成する能力を育成</p> <p>(2) 特別企画を実施し、多角的な情報収集力・思考力を育成</p> <p>(3) 語学力、多様性の享受、協同的態度、思考力を育成</p>	<p>(1) ①独自教材の更新を行い、思考力の向上を図る。 ②論理的な組み立てによる小論文作成力を習得させ、学校設定科目「グローバル情報」及び「社会と情報」と連携してプレゼンテーションソフトによる発表を行う</p> <p>(2) 外部講師を招聘した講演会や討論会を実施する。</p> <p>(3) ①語学研修のみならず、他国の人々と議論・調整・協同する海外研修・修学旅行の実施 ②海外研修参加者数の向上を維持</p>	<p>(1) ①② IMに対する生徒による授業評価3ポイント以上 (昨年度 1年生3.3 2年生3.5)</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答90%以上 (昨年度実施後アンケート肯定的回答96.2%)</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答90%以上 (昨年度 修学旅行100%) ②外研修参加者数120名以上</p>	<p>(1) (◎) ①② IMに対する生徒による授業評価 1年生 3.40 2年生 3.36</p> <p>(2) (◎) 実施後アンケートで肯定的な回答92%</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答 修学旅行100% (◎) ②外研修参加者数 本年度研修参加者117名 (○)</p>

府立和泉高等学校

<p>3. 得意技を身につけさせる</p>	<p>(1) ①グローバル科における英語4技能の強化</p>	<p>(1) ①グローバル科においてはSETを活用し「英語超人」はじめTOEFL仕様の授業を履修させ英語4技能の力を段階的に育成する。</p>	<p>(1) ① 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 760点以上 4名/655点以上 20名 535点以上 48名/395点以上 80名 2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 825点以上 4名/760点以上 12名 655点以上 32名/495点以上 80名 TOEFL iBT (チャレンジテスト) 40点以上 40名 3年生 TOEFL iBT 80点/ITP 550点以上 2名 TOEFL iBT 60点/ITP 500点以上 8名 TOEFL iBT 45点/ITP450点以上 30名 ※数値は累計 (昨年度) 1年グローバル科(1月まで) TOEFL ITP レベル2 (500点満点) 440点以上 6名 420点以上 16名 400点以上 31名</p>	<p>(1) ① 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking (○) 760点以上 0名/655点以上 22名 535点以上 67名/395点以上 80名 2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking (△) 825点以上 1名/760点以上 7名 655点以上 32名/495点以上 79名 TOEFL iBT (チャレンジテスト) 40点以上 機器不良のため測定できず 3年生 (△) TOEFL iBT 80点/ITP 550点以上 1名 TOEFL iBT 60点/ITP 500点以上 2名 TOEFL iBT 45点/ITP450点以上 26名</p>
	<p>②普通科に対する英会話力養成の機会設定 (2) 高大連携を推進する</p>	<p>②週3日朝の8:00~8:30まで外国人英語補助教員(NET)に英会話講座を開講する(長期休業中及び考査期間中は除く)。 (2) ①大学教員の講義を受講させる。 ②部活動等と大学との共同研究を実施する。</p>	<p>2年グローバル科(1月まで) TOEFL ITP 550点以上 1名 500点以上 2名 450点以上 14名 3年グローバル科(iBTチャレンジ30名/ITP50名受験) TOEFL iBT80点/ITP550点以上 0名 TOEFL iBT60点/ITP500点以上 2名 TOEFL iBT45点/ITP450点以上 25名) ②最終受講者数30名以上 (昨年度15名) (2) ①5回程度実施 (昨年度大阪教育大学連携年2回) ②研究発表を行う (昨年度科学部と和歌山大学との連携)</p>	<p>①最終受講者数10名 (△) (2) (○) ①5回実施 大阪府立大学・大阪教育大学との連携 ④ 究発表を実施 日本科学会主催化学研究発表会で発表</p>
<p>4. 進路指導を強化する</p>	<p>(1) 入学時から進路目標を意識させる (2) 学力生活実態調査や外部模試を実施し自分の学力と進路目標とを意識させる (3) 外部講師を招聘し将来への高い志を持たせる。</p>	<p>(1) ①入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供。 ②早期から大学のオープンキャンパスへ参加させる。 (2) 年2~3回の学力生活実態調査又は外部模試を全員受験させ、結果を個人面談や保護者懇談でフィードバックし、以後の学習方針に役立てさせる。 (3) 生徒・保護者対象の教育産業等の講師による進路説明会を実施。</p>	<p>28年度大学センター試験の結果 各科目とも偏差値平均52以上 (昨年度センター試験13科目偏差値52以上5科目52未満) 28年度入試における難関大学現役合格数 【超難関大学群】 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 計10以上 (昨年度 1) 【難関大学群】 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計75以上 (昨年度 125) 和歌山大・関大等 計120以上 (昨年度 158)</p>	<p>28年度大学センター試験の結果 (○) 偏差値平均52以上は16科目中8科目 (受験者数10人未満の科目は除く) 28年度入試における難関大学現役合格数 (○) 【超難関大学群】 阪大(1)・神大(1)・米国大(1) 計 3 【難関大学群】 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計 108 和歌山大・関大等 計 152</p>
<p>5. 修学が困難な生徒を支援する</p>	<p>(1) 必要に応じて支援チームを組織する。 (2) 相談体制の充実</p>	<p>(1) 外部機関(医師、府教育庁及びカウンセラー等)、校長、教頭、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。 (2) ①スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。 ②相談室を日常的に開放する。 ③学期毎に就学対策委員会を開催し、支援が必要な生徒について情報共有し、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p>	<p>(1)(2)(3) 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)の生徒の肯定的回答80%以上 (昨年度肯定的回答89.7%)</p>	<p>(1)(2)(3) (◎) 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)の生徒の肯定的回答85%</p>
<p>6. 教育効果を向上させるため校務を整理し、若手教員の育成を図る</p>	<p>(1) ①各部署の長の責任と権限を明確化 ②校内組織の整理 (2) 経験の少ない教員を積極的に登用するとともにミドルリーダーに育成する (3) 学校協議会を各方面から貴重な提言を得られる機会とする。</p>	<p>(1) ①責任と権限を明文化し、職員に周知させる。 ②校内の意思決定が円滑に進むよう校内組織を整理し職員に周知する。 (2) 分掌長や各種委員会の長に若手教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、校内組織の活性化を図る。さらに校長・教頭・首席・指導教諭らによる経験の少ない教員リーダーへの指導助言を推進し、組織マネジメント力を育成する。 (3) ①年3回(5月・8月・1月)実施する。 ②学校協議委員以外にオブザーバーとして、卒業生等、教育産業の代表者を招聘する。</p>	<p>(1)(2) 職員による「校長の学校運営に関するシート」において、肯定的評価が80%以上 提案された企画の実施数2個以上 (昨年度肯定的評価97%) (昨年度提案された企画の実施数1個) (3) 学校協議会において、3分の2以上の委員からの「提言を学校運営に効果的に取り入れている」との評価を得る。</p>	<p>(1)(2) (◎) 職員による「校長の学校運営に関するシート」において、肯定的評価が96% (◎) 提案された企画の実施数 4個 (◎) (3) (◎) 学校協議会において、全出席委員から「提言を学校運営に効果的に取り入れている」との評価を得た。</p>

## 府立和泉高等学校

7. 広報活動の充実を図る	<p>(1) 学校紹介資料・媒体の刷新</p> <p>(2) ①本校実施の学校説明会の内容充実 ②学校説明の資料改訂</p>	<p>(1) 学校パンフレットの刷新。</p> <p>(2) ①本校生徒が主役となるような内容に刷新し、本校の生徒の姿を見て頂く。 ②校外における学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法の工夫・改訂を行う。</p>	<p>(1)(2) 学校パンフレットの配付部数 4500 部以上 (昨年度約 4800 部)</p> <p>中学 3 年生進路希望調査における本校志願倍率 1.5 倍以上</p>	<p>(1)(2) 学校パンフレットの配付部数 4500 部以上 (○)</p> <p>中学 3 年生進路希望調査における本校志願倍率 第 2 回 1.59 倍 (◎)</p>
------------------	--	---	---	--